



ミューズの学とフロネーシス

—旧制高校の精神と自由七科の今日的可能性—

伊 東 乾

二一世紀初頭の脳認知科学はヒトの「情動」が「悟性」に先立って行為と意思を決定する生理的事実を教える。こうした知見は自然諸科学のみならず、古典古代以来の人文諸科学、また藝術を巡る思考にも、本質的影響を与えるものだとは私は考える。

ヒト脳の高度な認知には、必ず各機能単位(モジュールと呼ばれる)で認知の「演算」時間が必要である。これは数百ミリ秒に及び、それがそのまま遅延時間となつて、人間の「より人間らしい」思惟は必ず、数ミリ〜数十ミリ秒程度の短時間で処理される「より動物的な」反射より遅れて意識に訪れる。この「生理的与件」

を人類が免れることはない。

「行為は悟性に先立つ」「情動は悟性に先立って意思決定を司る」これらの知見をスピノザに倣って、ちょうどユークリッド幾何学における「公理・公準」のように、新しい「ヒト認知の生理的原理」として所与のものとしてみよう。この観点から人文社会科学、あるいは藝術を巡る知の領域を検証すれば、旧来は不可解とされた難題にアクチュアルな解決を企図できはしまいか。一例を挙げるなら「意識」「主体性」あるいはそれに付随する「責任」などは、従来は主観、内観の領分として、まさに客観化不能の領域とされてきた。古

代から二一世紀まで、専ら自然言語を用いた省察が重ねられている。ここに慎重かつ果敢にニューロサイエンスの知見を援用すれば、アリストテレスの「ニコマコス倫理学」からトマス・アクィナスの「神学大全」まで、古典を今日的に読み直す可能性が拓かれる。明らかに一種の「誤読」で、正統な哲学や宗教学、古典学の研究では推奨されないかもしれない。だが近しい友人が刑事裁判で死刑判決を受け、その法理を巡って深く、かつ正確な考察が必要であるような場合には、あらゆる手段の動員が許されると私は考える。

マインド・コントロール・刑事責任の訴求限界

豊田亨君は学士会会員であった。東京大学理学部物理学科を平成二年三月に卒業し、同時に学士会に入会している。豊田君はまた「地下鉄サリン事件」の実行犯として刑事被告人でもある。彼は「オウム真理教」に拉致、洗脳された一九九二年から会費未納で、学士会員としては音なしとなった。一連のオウム事件が発覚したとき、マスコミは彼らを狂気のカルト集団とレッテル貼りし、背景にあるメカニズムへの冷静な考察は見られなかった。だが私は、優秀な同級生の親友が宗教カルトに拉致され、行方不明になり、数年後に毒ガステロの実行犯として逮捕起訴される、その一部始

終を見てしまった。一人称複数の痛みを持つものとして、事を対岸の火事として見るのが出来ない。

平成一二年四月、作曲家・指揮者として生活していた私は、突然、東京大学に助教として招聘された。音楽実技の教官は帝国大学建学以来、最初である。私の狭義の専門は西欧音楽の作曲、指揮、これらに関連する基礎研究並びに教育である。第二次世界大戦中、西欧近代音楽と関連メディアは、人類初の「フアシズムの創発」に際し大きな役割を演じてしまった。その事実への深刻な反省に基づいて一九四五年以後この分野では、理科学の手法も駆使して高度に倫理的な問題に答える理論と実作が精力的に進められた。この傾向に大きく道を拓いた一人は哲学者テオドル・アドルノである。フランクフルト学派の重鎮アドルノは、同時に作曲家アルノルト・シェーンベルクとアルバン・ベルクに学んだ音楽学者、理論家でもあった。ルイジ・ノーノー、ピエール・ブレーズ、カールハインツ・シュトックハウゼン、ジェルジ・リゲティら戦後世代の音楽家たちはアドルノから決定的に影響を受け、一九五〇年代以後、新しい潮流を生み出す。彼らは第二次世界大戦の戦時技術を基に発達した新しい科学技術や聴覚心理学を活用し、音楽の領域を拡大するとともに、それらに倫理的な検証を加えた。これに遅れる

こと四〇年、冷戦が終結した一九九〇年代以降、小型電子計算機の普及に伴って脳認知科学が飛躍的に進展する。それらの知見を参照して、戦後「零時」の音楽思考と倫理を、より精緻に書き直す可能性が拓かれた。旧来の粗い目では零れ落ちた重要な問題の発見、解決も可能になり、これが筆者の世代の課題となった。私は二一世紀になってから主に発達した、近赤外光脳血流可視化システムなどの新しい機器も併用し、人類史に「悟性」に先立って、ナチスドイツや皇国史観のフアシズムを「創発」させてしまったテクノロジーや藝術思考を、現実に音楽の創造と再現に責任を持つ立場から検証する仕事を進めていた。やはり学士会員であった私の父伊東正男も、昭和一八年一〇月二一日安田講堂から学徒出陣、シベリアに四年抑留され、結果的に早逝している。先の問題は客観的な学の対象というより、私には人間として避けられぬ問いであった。その追求の中、全く同じ検証システムによってオウム真理教が行ったメディア・マインドコントロールの問題を取り扱えることに私は気づいた。そして長年の親友が被告として罪を問われているオウム法廷の議論を検証する過程で、團藤重光博士の刑法学、主体性理論、問主体的合意の理論、そして死刑を巡る一連の論を識ったのである。

マインド・コントロール、ないし極度の洗脳によって主体的な判断能力を欠く状態を長らく強制されたまま凶行の実行犯として行動させられた被告に、いかなる刑事責任が問えるのか。犯行時、意識覚醒の閾値は極めて低かったことは状況的には明らかである。一方、犯行の「事実」は動かかない。しかし犯行時の「認識」は客観的には定かではない。この「認識」の評価によって「量刑」が全く異なる。旧来「認識」については自白ないし証言に問うしかなかった。今日の脳機能可視化システムは、このような内観について準定量的な精度で客観測定データを提供する。それを用いた「新証拠」を法廷に提出することも可能だ。たまたま團藤先生のご自宅が研究室と三分の距離と知った私は、シンポジウムご登壇のお伺いを機に先生をお尋ねし、思い切ってこの問題に直接お教えを請うた。非礼にも拘らず團藤先生には快くアドバイスを賜り、法学部での自主ゼミの学生諸君共々、親しくご指導を賜るようになって今日に至っている。ご指導のもとに私は最高裁判所に上申書を提出し、また民意を反映すべき司直の本質を考へ、同一内容を広く一般読者に問う書籍も公刊した。

「フロネーシス」不在の教育

議論の根を調べる過程で私は、責任を巡る法理のポ

イントが中世スコラ学のアベラールや聖トマスまで遡れること、さらにそれはトマスが参照したアリストテレスの倫理学にほぼ直結することを知った。詳細を記す紙幅はないが、プラトンのイデア的原理を廃したアリストテレスが「ニコマコス倫理学」で倫理的思索の拠りしろとしたのは「多くの人々の是認する考え」(エンドクセ)で、これは團藤川カール・ポパーの「問主体の合意」の理論、さらにその延長に展開される死刑を巡る法哲学と密接に関連づけられるだろう。また、アリストテレスが導入した知や正義の区分化は、脳の機能モジュールと対応付けてモデル的に考察可能である。物理出身の私は「可解な模型」を用いて議論する傾向があり、乱暴な話になってしまいが、前述の脳科学の知見を措定し、中世神学の根から法理を敷衍することで、最終的に現行法での最高裁判所の法理まで整合した形で再解釈することが理論的には可能である。こうした知の営為は他の喫緊の問題、例えば裁判員制度におけるメディア導入の問題点などを論じる上でも大変有効である。すなわち司法の素人である裁判員に、檢察が証拠提示段階で惨たらしい画像や先入観を持たせる情報を提示すれば「悟性に先立つて情動が意思を決定し」予断に基づく冤罪判決が下されるリスクが発生する。二世紀脳科学の正確な知見を参照し、古典

リキュラムで私は単位発給の要件として、大学に入っただけの一年生に「自作問題」による「卒業論文型レポート」の提出を課した。自ら問題とゴールを設定し、それに必要な方法も自ら設計し、その実現を念頭にコンピュータの基本的な操作を主体的に学ぶのである。このプランは小宮山宏工学部長(当時・現東京大学総長)にアドバイスを頂きながら実施した。期末に提出されたレポートの中で優秀なものには「黒川賞」として賞品と黒川清学術会議会長(当時)を囲む課外のゼミナールへの参加資格を与えた。賞品は廉価な文房具などであったが意欲ある学生諸君の奮発を誘起することができた。

このゼミナールで黒川先生から「近代以後、日本の教育制度には「フロネーシス」が欠如している」とい

古代以来の法と倫理を巡る思考に諮りながら、現実の法曹実務まで正確に繋げることがここでは求められる。遺伝子鑑定など近年の科学捜査の進展を見るにつけ、未知の法廷局面に対し新たに正しい法理を立てる大胆かつ慎重な越境する知と、正義への確信の力が必要である。その力を有する若い世代の法曹の出現を、法学界外の人間たる私は強く希求する。

関連の問題を考えれば考えるほど、私は人材育成すなわち「教育」の重要性を痛感せざるを得ない。思えば親友豊田君がオウム真理教の魔手に奪われた瞬間、大学は圧倒的に無力だった。平成一二年東京大学に招聘された私は、学内非常勤として教養学部で全学必修・文理共通「情報処理」の講義演習を担当することとなり、その一環として「破壊的マインドコントロール予防」カリキュラム実施を開始した。教程の作成には小菅の拘置所にある豊田君の全面協力を得、七年間に三〇〇〇人近くの学生をこれにより指導した。広帯域インターネット(ブロードバンド)の普及で、従来と比較にならないほど莫大な情報に被曝する若い世代には、メディア・マインドコントロールを予防する批判的判断能力(Media Literacy)が必須不可欠である。それらは脳認知のレベルから確かな科学的基礎を持ち、また現実にも有効性を具備するべきである。同じカ

うご指摘があった。フロネーシス *phronesis* とはアリストテレスが倫理の拠り所とした「自分をも含めた共同体全体としてのポリスの善を考察する」自己関係的な知の概念である。そうか、豊田君をオウムの魔手から守れなかった教育のアンバランスは此処にあったのか！ 私は膝を打った。先に記した「破壊的マインドコントロール予防教育」カリキュラムで私は「結論」を標語的に三原則に纏めている。破壊的マインドコントロールはこれを「しない、させない」そして「させない」。最大のポイント第三項「させない」で、まさにこれこそ(ネットワークを含む)一人称複数共同体の共通善への配慮、フロネーシスに他ならない。残念ながら現行の教育制度に最も欠如している要素である。フロネーシスについて更に調べると、アリストテレス

自費出版のご案内

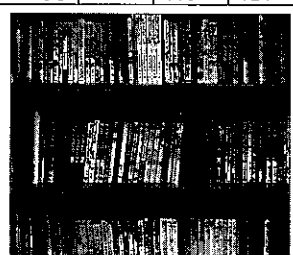
**「いいな編集で
「いい本」づくり**

費用概算表(目安・税込)
図・表と写真・絵は別途費用。手書き
原稿の文字入力1字0.7円。
①四六判並製・2色カバー装
上製・2色カバー装はプラス2万円。

	100部	200部	300部
150頁	58万円	64万円	70万円
200頁	72	78	84
250頁	88	94	100
300頁	102	108	114

②A5判並製・2色カバー装
上製・2色カバー装はプラス8万円。

	100部	200部	300部
150頁	68万円	74万円	80万円
200頁	82	88	94
250頁	98	104	110
300頁	112	118	124



割引 (複数の割引はできません)

- シニア割引
60歳以上の方は5%割引。
- 学会会員割引
会員の方は5%割引。
- シニア学会会員割引
60歳以上の会員の方は7%割引。
- 学術出版割引
学術出版の場合は7%割引。

送料

- 書店ルートに乗せられる内容の場合は、当社の負担で増刷し(100部単位)、増刷分は10%の印税を著者へ。
- 日本図書コード(ISBN)と定価をつけて、国会図書館に納本。
- トーンハン、日版などの大手取次書籍見本を提出して書誌データの登録をおこない、インターネット書店で販売。
- 全国大型書店にファックスで注文書付き宣伝チラシを送付。

明文書房

〒113-0033
東京都文京区本郷2-16-10三興ビル
Tel 03-5482-2436 Fax 03-5842-2489
E-mail: isiken32@estate.ocn.ne.jp

がこれを「追求する目的善を知ると共に、それにいたる手段をも一挙に把握する能力」としたことも知ることができた。結果的に小宮山教授の「自作問題による卒論型レポート課題」全体が、フロネーシス涵養の目的に合致していたことになる。そもそも応用実践的な研究について、限られた時間内に有限手順で現実的な解を求める行為そのものが、フロネーシスで基礎付けられるポリスの共通善、倫理的間主體的合意(エンドクサ)形成プロセスに他ならないのである。

「知の全貌」と新しい「自由七科」

かつて東京大学で全学広報委員を担当した際、私は、時流に乗った歴史の若い研究以上に、西欧古典や東洋哲学などの専門が、深いレベルから現代の重要な問いに真摯に応えるさまと、それがあまり専門外に理解されていらない実態とを知った。やはり広報の仕事で大学史を調べた際には、明治初期の日本に近代高等教育が導入された際、神学や倫理学などの「虚学」はこれを用いず、もっぱら「実学」によって「和魂洋才」の大学が構想された経緯が確認された。文系理系の別も、後発先進国として人材の促成栽培を目的とした一種のモノカルチャア化である。日本に導入された「大学」はラテン語語源をもちキリスト教と密接に関わる「ユ

ニバーシティ」より、フランス革命以後にアンシャン・レジームの影響を払拭して、ギリシャ語源から新たに造語された「ポリテクニク」に近い。フロネーシスの知の側面は、日本では学制導入の当初から希薄だったのである。それが最も濃厚となったのは、リベラルアーツの重要性が広く認識された大正—昭和期の旧制高等学校教育ではなからうか。果たして戦後の新制高等学校、大学では再び「教育のフロネーシス側面」は大きく後退してしまふ。西欧古代、中世に官学や大学が発生した当初、基礎的な学の全体をカバーする「自由七学科 Artes Liberales」が置かれたのは周知の通りである。今日の大学にも「リベラル・アーツ」の語は残るが、教養教科は「狭義の専門のための基礎」に限定されがちで、またフロネーシスのような倫理的側面は圧倒的に軽視される。歴史が再び動き始めた二一世紀、私たちは旧制高校の精神に学ぶべき多くを有すると考える。キリスト教文化圏に発生した中世大学には、まず「信仰」という絶対があり、そのもとに「神学」「法学」「医学」の専門の学があった。そしてその準備のためにラテン語の「文法・修辭・弁証法」と数学四科「算術・幾何・天文」そして「Musica」が課せられた。Musicaは「音楽」と訳されるが、これは「変化する量の均衡に関する学で、かつ唯一道徳にも関わ

る」基礎学術II学問藝術Artes、ピタゴラスのモノコード以来の調和解析(現在なら物理や数学)や普遍論争にも関わる音声の問題(現在なら記号論や言語学)、さらに心理学や、血液の循環と調和といった医学に近い内容にも関わりを持つ。例えば、中世カトリック世界において、キリスト教の唯一神ならざる異教の女神ミューズたちの名の下に、古典古代由来のさまざまな叡智が寄せ集められたのが「ムージカー」成立の実態ではなかったか。またそれが現在、狭義の「音楽」を意味するのは、カロリング朝初期に確立された中世の音響音声メディアの支配・影響力の強さの証拠ではなからうか。この学は「変化する量の均衡に与り、かつ道徳とも関」って、つまりフロネーシスの倫理性と密接に関連する。実際、教令で定められた聖歌は、典礼を通じ

てコミュニケーション成員すべての身体を、意識を超えて調律支配IIマインド・コントロールした歴史を持つ。グレゴリオ聖歌という「マントラ」は教皇ウルバヌス二世をして十字軍派兵の決定を下さしめるまで、ロマネスクの聖堂に響き続けたのだ。
ノーベル各賞のメダルにはミューズの女神が被る神祕ベールをめぐるプロメテウスの人間が描かれる。キリスト教神学と袂を別って専門分化した学術の全貌を俯瞰する「ミューズの学」Musicaと、それに基づく共同体全体への倫理の必要性を私は今日の社会に痛感するが、いかなるものだろうか。読者諸先達のご指摘と、筆者の不足へのご叱責を請いたい。

(東京大学大学院情報学環准教授・東大・学術博・理・平)

LIFE RESEARCH®
http://www.life-research.co.jp
土日も、ご相談や打ち合わせOKです。

●特別キャンペーン
学会会員・70歳以上の方は
10%引きいたします。

こんな方は、学会会員の私にお任せください。←
信用と信頼の出版社
「親身な対応、豊富な知識、
抜群の文章力と編集技術」
お待ちしております。

自費出版は日本文化の継承者

●DTP経験十五年の実績にご注目下さい。
●他社を3軒回ってからご相談ください。

流通番号を付し、書店販売もできます。
同じ人からの依頼が多いのも特徴です。

BOOKS

一般社員・オフィスなし、だから実現したこの価格

	100部	1000部
並製	29冊	48冊
上製	39冊	72冊

手書き原稿の方も安心です。入力代は1字当り1円。写真・絵の取込、10枚サービス。

好評発売中
麻酔科レジデントマニュアル
B5版上製 730頁 本体定価12000円
日野原重明監修 西山美鈴著
麻酔に携わるスタッフの必要かつ十分な知識をこの一冊に詰め込む。360点余りの豊富な図表が完璧な手術を約束します。

日本の醤油
その源流と近代工業化の研究
横塚保著 A5版上製 272頁 本体定価2000円
醤油の歴史は日本庶民文化の歴史だ。

随筆・科学専門出版社
ライフリサーチプレス
TEL:03-3706-0919 FAX:03-3706-2009
(担当/廣田) 156-0053 東京都世田谷区松2-18-32
編集提携 楽友舎 書店配本は取谷書店